

福祉の立場からの生涯学習

(公財) さわやか福祉財団

理事長 堀田 力

1. 学習の意義と役割

生涯学習⇒自己実現 (生きる力・人間力)

→ いきがい

| = 他者に対する支援
| = 自己の心身の健康維持
| = 介護予防
| = 尊厳保持

2. 福祉 (社会貢献) 活動と学習

○活動 = 知識の活用 (自己実現)

↓

○新しい課題への直面

↓

○研究・考案 (生涯学習)

↓

○課題解決 (自己実現) = 新知識の習得

↓

○新知識の活用 (自己実現)

3. 高齢者福祉の動向（尊厳の保持へ）

○どんな状態になっても自宅で暮らせる方向へ

＝地域包括ケア

（別添1「地域包括ケアの町」参照）

○いきがい・ふれあいを重視する方向へ

＝東京の地域包括ケア

（別添2「東京の地域包括ケア」参照）

＝介護予防・日常生活支援総合事業

（別添3「介護予防・日常生活支援総合事業について」参照）

4. 高齢者の生涯学習の体制整備

（1）情報の一括管理（カード化）

（情報）

①ケア（医療・介護関係）情報

②いきがい（就労・社会参画・学習）情報

例：GIS総合研究所による開発（総務省・国交省）

（管理者）

地域包括支援センター

(2) 生涯学習支援機関

地域包括支援センター＝公民館（←自治体、関係部局）

|

ハローワーク（就労・ボランティア）

|

社会福祉協議会・地域のNPO

その他の団体

（別添4「高連協加盟団体」参照）

|

地域の高齢者向け教育団体

|

地域の経営者団体

「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」における委員の主な発言内容

1. 生涯学習の意義・役割

○ 高齢化と生涯学習

- ・ 人生 90 年時代と人生が長くなったことで、生き方にも自由度がでてきた。このような中で、生涯学習を見直すことは大変重要。
- ・ 単に高齢者の教育をどうするかということだけでなく、大きな社会システムの変更が迫られている中で生涯学習の在り方を考えることが必要。

○ 超高齢社会における生涯学習の意義・役割について

- ・ 人生の後半では、健康や経済状態、ライフスタイル等も多様化しており、個々人が生涯学習を通じて人生設計をしていく必要がある。
- ・ 単に知識を蓄えるというものではなく、自らが新しく変わっていくという感覚を持つことが学びの基本であるという共通認識を図ることが重要。それにより流動化する社会にも対応が可能となる。また、若者も含め幅広い世代について考える必要がある。
- ・ 生涯学習を通じて、孤立をなくし、地域の人と人とのつながりを再構築していくという観点も重要。また、経済的な視点から考えた場合、生涯学習も生きがい・趣味だけではなく、就労のためのスキルを身につけるという意味でも重要である。

2. 長寿社会における生涯学習の今後の方向性

(1) 多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供

○ 学習内容及び方法の工夫・充実

- ・ 税金を投入して行政がやっていく以上、学習内容は時代に即したものに変わるべき。
- ・ 定年後の長い人生を生きていく中で、どのような内容の生涯学習を行うかが重要であり、カリキュラムを含めて考えていく必要がある。活動と学習を繰り返しながら、元気な人生を生きていくことが大切。
- ・ 学齢期における学習と高齢期における学習内容では自ずと異なる。高齢期では、健康状況や経済状況が異なるとともに、価値観が多様化しており、どのような学習内容、方法を提供していくかについて検討が必要。

○ ライフステージの特性に配慮した学習機会の提供

- ・ 生涯学習が世代によって色々な意味を持ってきている。地域貢献のための学びを施策としてやっていくのであれば、魅力のあるカリキュラムを提供するなどして、その意義を明確化していく必要がある。
- ・ 退職後、地域活動に参加したいと思ってもどうすればいいのかわからない高齢者も少なくない。高齢者になってしまったからの学習も重要であるが、30代や40代など働き盛りの世代が高齢期に入る前から、生涯学習などで意識付けを行うとともに、PTA 活動を始めた地域活動を経験しておくことも重要。その場合、プレ高齢者

が参加しやすい環境整備を行うことが必要。

- ・ 年代において学ぶ意義は異なる。65歳と95歳の人では大きな違いがあり、10歳ごとに年代を分けて多様性のあるものとして考えていく必要がある。
- ・ 後半人生における第二の義務教育として、生活設計や人生設計を学ぶ機会を提供することが必要。

○ 学習が困難な者への支援

- ・ 学習の場に来られる高齢者だけでなく、来ることのできない高齢者への支援も考えていかななくては、机上の空論になってしまう。これまでのような集まる型の学習だけではなく、健康に不安を抱えていて参加できない人のためのアウトリーチ型の届ける学び・出会いが必要。
- ・ 学習活動に参加したくないという高齢者がいる中で、どのように生涯学習に対する理解を深めるかを考えることも大切である。

○ 世代間交流の促進

- ・ 高齢者が子どもたちと交流することにより、元気もでるし、生きがいも生まれる。高齢者のみが集まって学習するよりも、子どもたちとの交流ができる施設が必要。
- ・ 高齢者と若者との交流をとおして、若者の価値観が変わり、高齢者も若者に対する考え方が変わるという面があり、世代間をつなげるようなプログラムの工夫が必要。

○ 高等教育機関等との連携

- ・ 学習する場としては、大学での学びやICTの活用による家庭での学習など選択の自由を与えることも重要。

(2) 社会参画の促進

○ 生涯学習を通じた社会参画の促進

- ・ 学習の目的は自己実現であり、学ぶ前提として社会貢献は権利であり義務である。
- ・ 高齢者大学への入学の動機は、興味関心とまちづくりや協働の担い手になりたいという2つに大きく分けられる。まずは興味関心の講座から、まちづくりに関係する講座へと徐々に移行するやり方が有効ではないか。

○ 地域課題と個人の持つ資源をマッチングできる人材の養成

- ・ 暮らしや様々な活動の実践とのマッチングが重要。きっかけがない、働ける場所がわからないという人も多いので、そういった人を導けるインストラクターやコーディネーターのような人材が必要不可欠。

○ 関係機関相互の連携

- ・ 長寿社会の生涯学習においては、地域というキーワードが重要。生涯学習行政が他部局と連携していく中で、地域の学びと実践、暮らしと支え合いが実現していく。
- ・ コミュニティ・スクール型の小中学校では、高齢者が授業やクラブ活動の支援にあたり、自己実現を行っている。学校教育と生涯学習の連携もこれから可能性がある。

ご議論いただきたい論点

- 高齢者の社会参画を促進するための方策について
 - ・ 高齢者が社会参画を行うことの意義・効果について
 - ・ 高齢者の働きたい、社会参加したいという意欲を阻害する要因・課題
 - ・ 具体的に学びを通じて社会参画を促進するための方策について

- 体制の整備について
 - ・ 長寿社会において生涯学習を推進するための各主体（行政、学校、大学、民間、NPO、地域組織等）の役割
 - ・ 国、都道府県、市町村の役割分担について
 - ・ 首長と教育委員会との連携について
 - ・ 生涯学習と福祉との連携について
 - ・ 各機関の連携を阻害する要因・課題について
 - ・ 連携を促進するための方策について

- その他
 - ・ 世代間交流・国際交流を促進する方策について
 - ・ 高齢期に向けた備え（どのような学習内容を提供していくか）について

第3分科会〔希望の高齢社会—新たな可能性への挑戦—〕

開催日 平成23年11月5日(土)～6日(日) 会場 イイノホール

「高齢者を地域における社会的役割を認識し「社会参画」や「自立」を通じて地域を支える担い手として捉え直し、高齢者の社会参加の促進を図る上で、果たすべき生涯学習の役割等について研究協議

【参加者数】1日目：157名、2日目：87名

(1) 基調講演

演題：「超高齢社会の現状と課題」

講師：宮本 太郎氏（北海道大学大学院法学研究科教授）

【講演内容】

- ・ これまでの日本では、教育や社会保障がおろそかにされ、雇用のみが重視。
- ・ 上記の仕組みは、完全雇用の崩壊、家族形態の変容、現役世代の減少により、1995年を境に崩壊。
- ・ このまま超高齢化が進むと、2050年には1人の現役世代が1人の高齢者を支えることに。
- ・ このような超高齢社会における処方箋として、①現役世代の能力向上、女性労働力率向上、②高齢者の社会参加、③医療費、年金削減の3つを紹介し、スウェーデンをモデルとしつつ、日本における教育・雇用・社会保障の「連携の新しいかたち」のビジョンを提起。



(2) 特別講演

演題：「学びから始まる希望の高齢社会」

講師：樋口 恵子氏（NPO法人高齢社会をよくする女性の会理事長）

【講演内容】

- ・ これからの高齢者が上機嫌で生きるためには、「知るは力」が重要。その意味で生涯学習が重要な役割を果たす。
- ・ 超高齢社会においては、変えるべきものを変える勇気（courage）、人知に及ばないところとして受け入れる冷静さ（serenely）、それらを取り違えないための知恵（wisdom）が必要であり、取り違えないようにするためには正確な学習が必要。
- ・ 第二の義務教育として、行政は、人生100年社会において、人々の幸せを保証するための学習機会を提供する義務があると提唱。



(3) 事例発表等

①テーマ：「高齢者の持つ可能性への期待—誰もが生きやすいまちづくりをめざして—」

内容：急速な高齢化により、介護問題や高齢者の社会的孤立の問題などが顕在化する中、地域の活性化という観点からの高齢者への期待について事例報告。

②テーマ：「生涯学習を通じた社会参画」

内容：高齢者にとっての生涯学習及び社会参画活動の意義・役割並びに促進のための具体的方策について学習側の視点及び提供者側（受入れ側）の視点から報告



(4) パネルディスカッション

テーマ：「希望の高齢社会—新たな可能性への挑戦—」

基調講演、特別講演、事例発表等を通して、7名のパネリストにより、希望の高齢社会について討議。

【主な意見】

- 超高齢社会は高齢者だけの問題ではなく、若い世代、次の世代にどうつなげていくかが問われている時代である。その中で、学ぶこと、生涯学習をどう捉えていきながら、社会をどう組み替えていくかが大きな課題。
- 学び合いながら、議論しながら、その地域をどのようにしていくかを自ら考えて決めることができる地域社会こそ高齢社会の中で希望のある地域になっていくのではないかと。
- 老いも若きもみなが社会貢献でき、それによって自分も社会も喜べる社会、それが本当の希望の高齢社会を開く道である。
- 地域再生には現場主義とそれを実行する強いリーダーが不可欠。
- 会社経営も市政経営も地域経営も、リーダーは常にそこにいる人たちに夢を与えることが重要。
- 学びを通じて他者と交流し、その交流を通じて新しい価値を作り出していく。超高齢社会は、社会の在り方が変わっていく中で、ある意味で新しい社会を作り出していきつつかけになるのではないかと。

超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会スケジュール(案)

9月26日 第1回 検討会

審議内容:①超高齢社会における生涯学習と社会参画の現状と課題
 ②その他
 ※ フリーディスカッション

11月 2日 第2回 検討会

審議内容:①超高齢社会における生涯学習の意義及び役割
 ②その他
 ※ 下記委員からの発表の後論点別のディスカッション
 ○石川委員:公民館での取り組みの現状と課題
 ○清原委員:生涯学習を通じたまちづくりの現状と課題(三鷹市での取組)

全国生涯学習ネットワークフォーラム
 第3分科会(希望の高齢社会ー新しい可能性への挑戦ー)
 日時:2011年11月5日(土)、6日(日)
 場所:イイノホール

12月21日 第3回 検討会

審議内容:①生涯学習を通じた社会参画
 ②生涯学習の体制整備(関係機関との連携の在り方)
 ③その他
 ※ 下記委員からの発表の後論点別のディスカッション
 ○高畑委員:生涯学習を通じた社会参画(学習成果をどのように地域還元するか。)
 ○堀田委員:福祉の立場からの生涯学習(生涯学習と福祉との連繋)

1月19日 15:00~17:00

第4回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
 ※ 骨子案の審議

2月 3日 13:30~15:30

第5回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
 ※ まとめ(案)の審議

2月下旬 第6回 検討会

審議内容:超高齢社会における生涯学習の在り方
 ※ まとめ(案)の審議

3月中旬 第7回 検討会(予備)